



子どもの経験を逃さない工夫

副園長 野本 和美

アジサイの花が色付き始めました。新入園児も進級児も幼稚園での生活に慣れ、学級や学年の先生や友達と少しずつ親しくなり、自分なりの動きを出せるようになってきました。

私は、今年度異動をしてきました。新園舎になって1年ほどの柳町こどもの森は「園舎も遊具もぴかぴかきれい」です。できて間もないことはもちろんですが、日頃より主事が隅々まで掃除をするとともに、担任はもちろん、保育室に入っている職員全員が、子どもが関わる場をきれいにしようと日々努力をしているからだと思います。その整った環境の中で、子どもたちは毎日元気いっぱい遊び、たくさんの楽しい経験をしています。そんな心地よい環境のこどもの森ですが、今、工事を進めている途中であり、園庭がありません。園庭で経験するであろう、鬼ごっこや固定遊具での体を動かす遊び、砂場や栽培活動…それらが経験できるよう、保育者は様々な工夫をしています。ホールやテラスで鬼ごっこやボール遊び、一本橋や巧技台でサーキットを作り、登ったり渡ったりジャンプしたりと、固定遊具の代わりに体を動かす活動ができるようにしています。そして、テラスで土作りや苗植えなど栽培活動もしました。子どもたちは毎日水やりをしながら生長を楽しみにしています。また、柳町小学校が隣であるという利点を生かし、毎日給食時間に体育館に行き、隅から隅まで思い切り走っています。先日は小学校校庭に遊びに行き、砂に触れる経験や、のぼり棒やジャングルジム、いろいろな固定遊具にチャレンジする経験をすることができました。

このように、場がないからできない、ではなく、どこで何ができるのか、どうしたらできるのか、日々工夫を凝らし計画を進めています。今後も、子どもたちの経験を逃さないために、保育者全員で知恵を出し合い、工夫と努力を重ねて保育を進めていきたいと思っています。

